

## 第三十八回北方領土の返還を求める都民大会 会長挨拶

令和二年一月三十日

- ただいまご紹介をいただきました谷茂岡でございます。  
第三十八回北方領土の返還を求める都民大会の開催にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。
- 本日は、お忙しいところ、このように大勢の皆様にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。
- 本年も多数のご来賓をお迎えいたしております。  
東京都議会、内閣府、外務省、並びに、北方領土問題対策協会からお出でいただいております。ご支援に対しまして御礼を申し上げます。
- また、先ほどご紹介に預かりましたとおり、昨年十二月十九日に「北方領土返還要求運動推進功労者」の第二十三回内閣府特命担当大臣表彰を受賞いたしました。このような栄誉ある賞を賜りましたのも、都民会議の役員・会員、本日ご来賓としてお越しいただいている方々を始め、北方領土返還要求運動に尽力されている皆様のお力のおかげであり、あらためて厚く御礼申し上げます。
- さて、本日の講演会では、兵頭 慎治（ひょうどうしんじ）様から、「激動する東アジア情勢と日ロ関係の行方」について御講演を頂くことになっております。
- 兵頭（ひょうどう）様は、ロシア地域研究の専門家として、青山学院大学大学院、国際基督教大学で教鞭を振るわれています。また、昨年まで、内閣官房国家安全保障局の顧問も務められておられました。  
本日の御講演でも、北方領土問題の興味深いお話が伺えるものと期待しております。
- また、昨年八月に行われた、北方領土問題青少年現地研修会について、本日この後、参加中学生から発表がございます。今回

の研修会での体験を通じて、次世代を担う中学生が何を感じられたのか、発表を大変楽しみにしております。

○この都民会議も昭和五十八年の設立以来、今年で三十七年目となりました。

この間（かん）私どもは、日本国政府とソ連そしてロシア政府との交渉を見守りながら活動をしてまいりましたが、残念ながら北方領土返還という私たちの悲願はいまだ果たされておられません。

一日も早く日本へ帰ってくることを、そして日露両国の国民同士が、本当に胸襟を開き、信頼関係を持って交流できる日が必ず来ることを信じて、私たちの運動を進めていかなければならないと、強く感じております。

○島を取り戻すまで、私たちは決してあきらめることなく、粘り強く、そして希望を持って、返還要求運動を推し進めてまいりたいと存じます。

どうぞ、皆様方にも引き続き力強いご支援をお願い申し上げます。簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。